

J-POWERグループは国内の電力事業の経験・技術ノウハウを活かし、半世紀以上にわたり、世界各地で電源の開発および送变电設備等に関する海外コンサルティング事業を行ってきました。1962年に最初の案件を実施して以降、その数は64カ国・地域359件に達しています。その後、世界各国で電気事業の自由化が進む中、旺盛な電力需要の増加が見込まれる海外市場に資本・技術을投入して事業参画を行う「海外発電事業」への取り組みを開始し、長年の海外コンサルティング事業で培った各国での信頼関係・ネットワークを活かしながら事業参画を拡大してきました。

長年にわたり培った海外事業におけるJ-POWERグループの強みを最大限に活かし、今後も事業基盤を有するタイ、米国、中国に加え、旺盛なエネルギー需要があるアジア諸国を中心に、当該国・地域のサステナブルな成長を支える、再生可能エネルギーも含めた新規開発案件の獲得に取り組んでいきます。

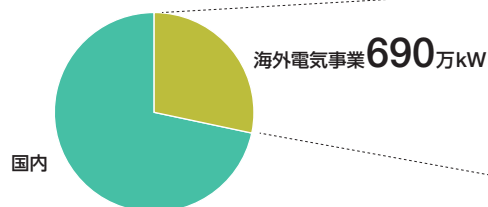
社会課題

- 新興国における電力不足
- 環境問題・地球温暖化

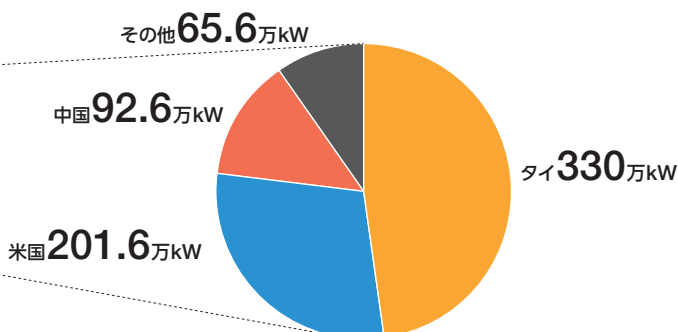
J-POWERグループが提供する価値

- 海外コンサルティング事業や発電所開発による海外の電力安定供給への貢献
- 海外における環境配慮型の最新鋭高効率石炭火力の建設や洋上風力建設計画への参画による環境問題への対応およびCO₂排出削減への貢献

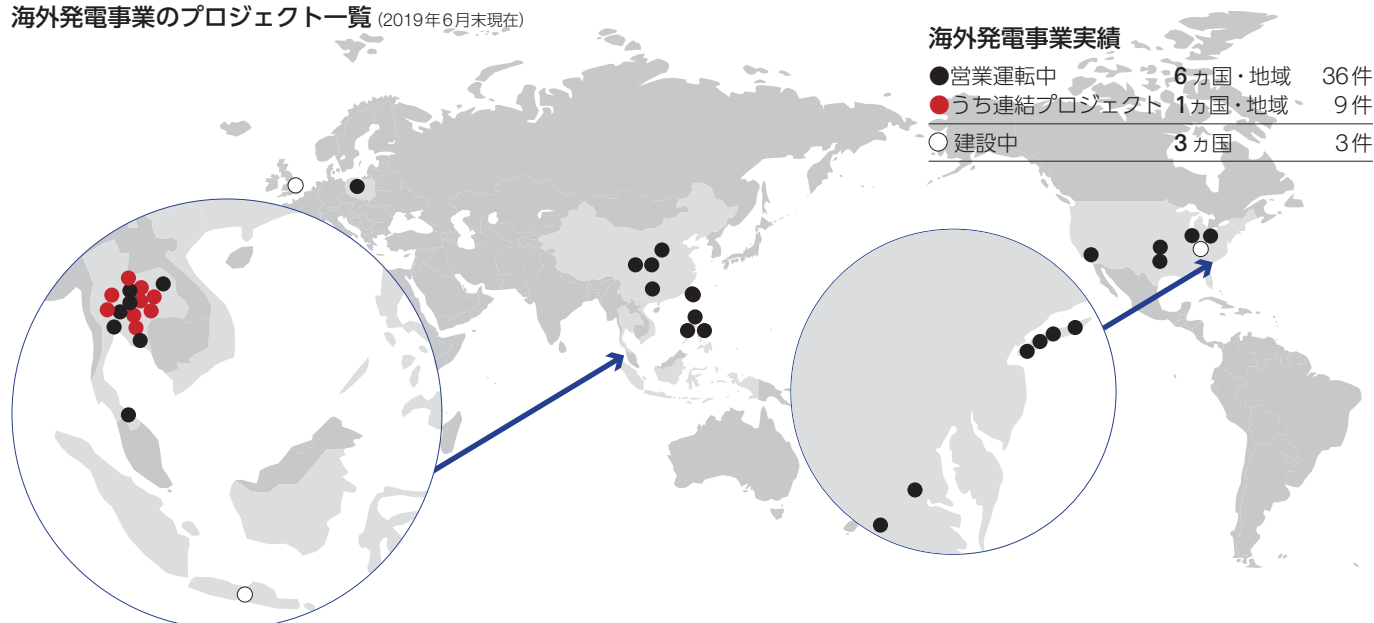
J-POWERグループの発電設備出力(持分出力ベース)
(2019年6月末現在)



海外電気事業の国別発電設備出力(持分出力ベース)



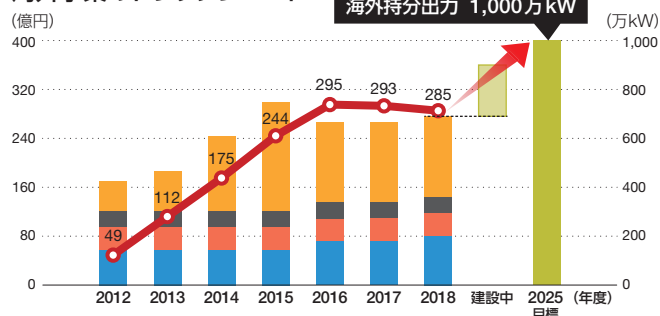
海外発電事業のプロジェクト一覧 (2019年6月末現在)



中期経営計画における海外事業目標

中期経営計画において2025年度の目標として掲げている海外持分出力1,000万kWの実現に向けて開発中プロジェクトの建設工事の進捗、新規案件獲得など着実に発電事業資産を拡大していきます。

海外事業のトラックレコード



持分出力(右軸) ■ 米国 ■ 中国 ■ その他 ■ タイ ● セグメント経常利益(左軸)
 (注) 1. 持分出力は、設備の出力に当社出資比率を乗じて算定。
 2. セグメント経常利益は利益の実態を示すために、報告セグメント「海外事業」(海外発電事業等)の経常利益から、為替差損益を控除している。

中期経営計画目標達成に向けた取り組み

2018年12月、J-POWERグループが25%の権益を保有している米国のウェストモアランド火力発電所が運転開始しました。

新規開発案件については3件あります。まず、インドネシア初の高効率石炭火力となるセントラルジャワプロジェクトで2020年の運転開始に向けて建設を進めています。また、2018年8月には英国のトライトン・ノール洋上風力発電所の権益を25%取得し、海外洋上風力発電事業に建設段階から参画しています。さらに、2019年6月には、米国イリノイ州に120万kWのガスコンバインドサイクル(CCGT)であるジャクソン発電所の建設を開始しました。本開発地点は、大需要地であるシカゴ都市圏近傍に位置しています。加えて、

米国で最も大きな市場であるPJM市場内の地域で、当社が権益を有しているエルウッド発電所の隣地に建設するため、市場環境を熟知しているという優位性があります。

これらのほかにも、複数の検討中の案件を抱えており、2025年度目標である海外持分出力1,000万kW達成に向けて質の良い案件を見極め、立ち上げに向けて注力しています。



ジャクソン発電所完成予想図(米国)

取り組み実績	種別	設備出力	持分比率	持分出力	備考
ウェストモアランド火力発電所(米国)	ガス(CCGT)	92.6万kW	25%	23.1万kW	2018年12月運転開始

開発中プロジェクト

セントラルジャワ(インドネシア)

設備出力	200.0万kW(100万kW×2)
種別	石炭(超々臨界圧)
当社出資比率	34%
現況	建設中
運転開始予定 1号	2020年6月
2号	2020年12月

トライトン・ノール洋上風力発電所(英国)

設備出力	86.0万kW(0.95万kW×90)
種別	洋上風力
当社出資比率	25%
現況	建設中
運転開始予定	2021年

ジャクソン(米国)

設備出力	120.0万kW(60万kW×2)
種別	ガス(CCGT)
当社出資比率	100%
現況	建設中
運転開始予定	2022年

